

## 令和元年度 秋桜高等学校 学校評価

### I 中期的目標

<p>1 生徒一人ひとりとしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する。</p> <p>(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。</p> <p>(2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。</p> <p>2 基本的生活習慣の確立を図り、学校生活が心地よく過ごせるよう、全教職員で取り組む。</p> <p>(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。</p> <p>(3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。</p> <p>(4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。</p> <p>(5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。</p> <p>(6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。</p> <p>(7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。</p> <p>3 教職員間の情報交換がしっかりできるよう工夫し、生徒一人ひとりを大切にした教育に全教職員で取り組む。</p> <p>(1) 生徒一人ひとりを大切にした教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。</p> <p>(2) 職員会議等の機会のみならず、日常における情報交換を行い、相談できる機会を持つ。</p> <p>(3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。</p>
--

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成31年4月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 別紙「生徒に対するアンケート」参照。</p> <p>○保護者 別紙「保護者に対するアンケート」参照。</p> <p>○教職員 別紙「本校教職員に対するアンケート」参照。</p> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や各種行事等を含む日常の生徒との交流・指導および保護者との懇談等をもとに、教職員は目標を理解しつつ活動している。</li> <li>・定期的、臨時的な会議および日常的な意見交換の場において確認された教職員の認識によれば、重点目標について各教職員の理解と協力が得られたと思われる。</li> <li>・前年度に引き続き上記のような取り組みを実行し、その結果は当年度においても全般的に目標に沿った効果を見ることができたと考えられる。</li> <li>・前年度の課題となっていた「特別活動」に関しては、それぞれの特別活動の実施前に教員全員でどんな特別活動の時間になればいいのかということ丁寧議論し、事後の総括もこれまで以上に丁寧に取り組むことで当年度の結果は前年度に比べ肯定的評価が増えた。引き続き次年度においても取り組むこととする。</li> </ul>	<p>学校評価委員会実施日：令和2年6月24日～7月20日（構成委員6名） ※令和2年7月31日を予定してたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、意見書と電話会議等で実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己評価の結果内容が適切かどうか 適切である（4）人・適切でない（0）人・わからない（2）人</li> <li>自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか 適切である（5）人・適切でない（0）人・わからない（1）人</li> <li>学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか 適切である（5）人・適切でない（0）人・わからない（1）人</li> <li>学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか 適切である（5）人・適切でない（0）人・わからない（1）人</li> </ol> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業し歳を重ねる中で思うのは、高校生活で大事なことは人との関わりである。コロナ禍で、オンラインやテレワークという形でしか関われなくなり、余計にこのことが大事だと思うようになった。高校生活でどれだけいろいろな人と関わり、話をして一緒に思い出を作ったのかということが、大人になってつまづいたとしても心の糧になっている。だから、これからもどの子どもたちにも、そのような機会を保障して行ってほしい。</li> <li>・全体として改善傾向なので、今後も継続した取り組みを続けてほしい。</li> </ul>

2 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人ひとりしっかりと話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する	<p>(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。</p> <p>(2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。</p>	<p>・継続課題として前年度より「学校づくり、学習・教科指導の充実についての保護者の認識」については、引き続き取り組む。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）① 「本校の教育理念および方針に基づいて校務に取り組んでいる」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）② 「時間割や開講科目等、教育カリキュラムを工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）④ 「生徒が興味を持って参加できる授業になるように工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）⑤ 「生徒の意欲を引き出す取り組みやすいレポートとなるように工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・学校評価（生徒）① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が91.3%（前年度実績87.7%）。</li> <li>・学校評価（生徒）③ 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が90.6%（前年度実績90.8%）。</li> <li>・学校評価（生徒）④ 「レポートは、取り組みやすいように工夫されている」の肯定的評価が92.8%（前年度実績90.7%）。</li> <li>・学校評価（保護者）② 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が84.7%（前年度実績82.6%）。</li> <li>・学校評価（保護者）③ 「レポートは、取り組みやすく生徒の意欲を引き出すよう工夫されている」の肯定的評価が86.8%（前年度実績84.1%）。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）③ 「生徒の状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・学校評価（生徒）② 「先生たちは、一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が94.9%（前年度実績96.2%）。</li> <li>・学校評価（保護者）① 「教員は、生徒一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が91.0%（前年度実績89.9%）。</li> </ul>	<p>前年度のアンケート結果と比較して、どの項目も大きな数値の変動はなく、今年度も概ね肯定的評価をいただいていると判断でき、学校運営、教育活動に対し理解を得ていると評価する。</p> <p>学校評価（保護者）</p> <p>③「レポートは、取り組みやすく生徒の意欲を引き出すよう工夫されている」の肯定的評価は、前年度より2.7%増加しているが、「よく感じる」が66.7%と他の項目の数値よりも低くなっている。このことについて、「保護者は、子どもが学習に対して取り組んでいる姿を見る機会がないため、意欲がないように見えるのかもしれない。」との指摘を受けた。しかしながら、本校ではなるべく学校にいる間に教員と一緒にレポートをするように働きかけており、レポートを一緒にする日や機会をできるだけ多く設けている。そのことで、個人の苦手なところを把握し、その場で補う時間を取ることで、学習内容の徹底が図れると考えている。よって、懇談時などに保護者へ説明し、理解を求めていくことで改善されると考えている。</p>

(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。

(2) 基本的な生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。

(3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。

(4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。

(5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。

(6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。

(7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。

- ・継続課題として前年度より「宿泊研修等の特別活動への有意義な参加についての生徒の認識」については、引き続き取り組む。
- ・特別活動については、活動内容の企画・立案や生徒参加の留意点等について、慣例的・固定的なものにこだわることなく、充実したものとなるよう努める。
- ・何よりも「楽しい学校」であるべく工夫し、各生徒が自らも他からも肯定されることから始めることによって、自信と将来への希望を育むことに心がける。
- ・教育方針や生徒指導等に関しては、懇談の機会を重視しながら、教育内容に関する各種通信文書、「いじめ防止基本方針」のHP掲載等を活用しつつ保護者への周知を進める。

(1)

- ・自己評価(教職員)⑥ 「生徒が楽しくいきいきと参加できる学校行事となるよう考えている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑤ 「特別活動(学校行事)は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が87.7%(前年度実績83.0%)。
- ・学校評価(保護者)④ 「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価が87.4%(前年度実績89.1%)。

(2)

- ・自己評価(教職員)⑦ 「どの学校行事にも生徒が参加しやすいよう丁寧に働きかけている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(3)

- ・自己評価(教職員)⑧ 「生徒の基本的な生活習慣の確立につながるよう学校生活や行事の中で支援している」の肯定的評価が94.7%(前年度実績100%)。

(4)

- ・自己評価(教職員)⑨ 「生徒同士がつながり、学校生活が心地よく過ごせるよう環境づくりを工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(5)

- ・自己評価(教職員)⑩ 「校舎や教室の美化に努めている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑥ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が96.4%(前年度実績93.9%)。
- ・学校評価(生徒)⑦ 「清掃が行き届いている」の肯定的評価が91.4%(前年度実績90.0%)。
- ・学校評価(保護者)⑤ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が97.9%(前年度実績93.5%)。
- ・学校評価(保護者)⑥ 「清掃が行き届いている」の肯定的評価が92.4%(前年度実績92.8%)。

(6)

- ・自己評価(教職員)⑪ 「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に進路相談や懇談を行っている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑧ 「生徒たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」の肯定的評価が89.2%(前年度実績86.2%)。
- ・学校評価(保護者)⑦ 「懇談や進路相談などが丁寧におこなわれている」の肯定的評価が97.2%(前年度実績95.7%)。

(7)

- ・自己評価(教職員)⑫ 「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に情報を発信している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑨ 「教職員は、郵送や電話などを通して丁寧に連絡をしている」の肯定的評価が97.8%(前年度実績95.4%)。
- ・学校評価(保護者)⑧ 「学習計画が立てられるよう、郵送や電話での連絡が丁寧におこなわれている」の肯定的評価が97.2%(前年度実績95.6%)。

前年度の課題であった進路指導について、今年度の結果は、生徒と保護者ともに肯定的評価が増加した。特に、学校評価(保護者)⑦の「懇談や進路指導などが丁寧におこなわれている」「よく感じる」が90.3%であり、これまでにない高い数値となった。これは、3年生の学年団が意識をして他の学年にも進路指導の進捗状況や卒業する生徒の進路について、丁寧に報告したためであると考えられる。したがって、全学年に対し進路についての意識が広がり、保護者も生徒と一緒に早い段階から将来について考えるようになった結果だと推察される。よって、次年度も引き続き「進路は3年生」という概念を取り払い、教員全員で進路指導について考えていく機会を持ちたい。

一方、コロナ禍で生徒や保護者と進路について考える機会が奪われている状況の中、実際には出会えない時間にも自分の進路やこれからの生き方について保護者と共に考える機会が持てるよう、進路通信や手紙などの内容を充実させていかなければならないと考えている。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 教職員間の情報交換がしっかりとできるように工夫し、生徒一人ひとりを大切にされた教育に全教職員で取り組む。</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりを大切にされた教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。</p> <p>(2) 職員会議等の機会のみならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。</p> <p>(3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続課題として前年度より「各教職員間の情報伝達」については、引き続き取り組む。</li> <li>・各教職員間においては、適切な個人情報の保護に配慮しつつ、できるだけ開放的な情報環境の構築に努め、各種行事の内容・日程および校務運営全般の企画・調整、教育課程検討、生徒指導指針、人権教育をはじめとする各種研修、進路指導、カウンセリング、広報活動等の校務分掌各部の分担業務について、教職員間での連携・協力を奨励する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）⑬ 「生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導を行っている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・学校評価（生徒）⑩ 「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が97.8%（前年度実績96.9%）。</li> <li>・学校評価（生徒）⑪ 「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が95.0%（前年度実績92.3%）。</li> <li>・学校評価（生徒）⑫ 「この学校に入学してよかったと思う」の肯定的評価が94.2%（前年度実績93.0%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑨ 「教員は、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が98.6%（前年度実績94.2%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑩ 「教職員は、生徒や保護者が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が99.3%（前年度実績92.8%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑪ 「校風・雰囲気が良い」の肯定的評価が97.2%（前年度実績92.0%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑫ 「この学校に入学させてよかったと思う」の肯定的評価が97.9%（前年度実績93.5%）。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）⑭ 「学校生活上で問題が起こった場合、その都度全員で話し合い、対応している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）⑮ 「生徒についての情報を丁寧に交流し、各個人に応じた指導を行っている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）⑯ 「職員会議やその他の会議等は、誰もが発言できる機会となっている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）⑰ 「教職員の資質向上につながるような研修の機会を設けている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> </ul>	<p>前年度の学校評価（生徒）⑫「この学校に入学してよかったと思う」については、否定的評価の生徒が若干いたが、今年度は「まったく感じない」が一人もいなかった。これは、教職員全員で生徒全員に関わっていきこうと、様々な場面で声をかけたり話を丁寧に聞いたりする積み重ねの結果だと考える。他にも、生徒全員の名前を教職員全員で覚え、情報交換を頻繁に行うことなどは、開校当初から変わらず継続している。しかしながら、「よくわからない」と答えた生徒や保護者が若干名いるので、卒業時には「入学してよかった」「入学させてよかった」と感じられるよう、数少ない登校機会ではあるが、出会えた時の声かけ、出会えていない時のお手紙や連絡などをこれからも尚一層ていねいに行っていきたい。</p> <p>学校評価（保護者）⑨「教員は、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」は、前年度は肯定的評価を少し下げていたが、今年度においては4.4%増加した。この結果については、保護者との懇談時、電話連絡の際に生徒の学校での様子を丁寧に伝えてきたことが評価されたのだと考える。また、三者懇談時には、クラス担任以外の複数名の教員が懇談部屋に顔をのぞかせ、保護者や生徒と出会い、授業中や行事などでの生徒の姿を伝えることを継続してきていることもこの評価につながっていると考えられる。したがって、今後も引き続き、保護者に学校や生徒の状況を伝える努力をしていきたい。</p>
---	--	---	---	--